



※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。



ハダニ類の多発に注意しましょう！

ナミハダニ



主に葉裏に寄生し、吸汁することで**白い小斑点**が発生。大量発生すると、葉は黄化し、枯死する。また、葉や花にくもの巣が張ったような状態となる。施設では1年中寄生し、特に高温・乾燥条件で増殖が激しく、短期間で高密度となる。低温期でも、暖房機の周辺などで多発。25℃では約10日で1世代を繰り返し、1匹当たりの産卵数は100～150個。

冬	春	夏	秋								
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月



多発すると防除が難しいです。
早めの対策がおすすめです！

- ◆ 園場内あるいは園場周辺の雑草が発生源となるので、除草を行う
- ◆ 管理温度が高いと増殖が旺盛となるので、適正な温度管理を行う
- ◆ 同一薬剤の連用は薬剤抵抗性の発達に繋がるので、ローテーション散布を心掛ける

**防除チラシ掲載農薬は年間の通し回数をカウントしていません！
ご自身の散布履歴に合わせて薬剤を検討してください！**

IRAC FRAC	対象病害虫	薬剤名	予防	治療	希釈倍数	使用 時期	回数	影響日数			
								ミツバチ	マルハナ	ミヤコ	チリ
天敵を入れている方はこの時期に追加放飼がおすすめです！											
50	うどんこ病	クロスアウトフロアブル	○	○	3000～4000倍	前日	3回	-	-	-	
25A	ハダニ類	ダニサラバフロアブル	-	-	1000倍	前日	2回	1日	0日		
NC	うどんこ病・さび病 灰色かび病	カリグリーン※1	-	○	800倍 (うどんこ病 :800～1000倍)	前日	-	0日			
34	アザミウマ類	ファインセーブフロアブル	-	-	1000～2000倍	前日	3回	1日	0日		
-	うどんこ病・アブラムシ類 コナジラミ類・ハダニ類	フーモン※2	-	-	1000倍	前日	-	0日	1日		
28	アブラムシ類・コナジラミ類 アザミウマ類・カキハメコバエ ハスモンヨトウ・チバクロバエノコバエ	ベネビアOD	-	-	2000倍 (ハスモンヨトウ :2000～4000倍)	前日	3回	1日	0日		

作物によって対象病害虫や希釈倍率が異なる場合があります。ラベルの確認をしてから使用してください。

※1野菜類(トト・ミニトトを除く)登録

※2野菜類登録

スパイデックス

- ▶秋放飼した天敵の定着ムラを均一に！
- ▶3月以降の急増期の予防に！

☆追加放飼 おすすめタイミング☆

【ハダニ発生圃場】

早めに選択性殺ダニ剤を散布後

【ハダニ未発生圃場】

天候を見ながら選択性殺ダニ剤を予防的に散布後

【毎春ハダニ発生圃場】

例年発生する時期の1か月前に選択性殺ダニ剤を散布後



新・ミツバチ応援資材

カモンビービー[®]アロマ

従来品から
パワーアップ！

☆改良型パッケージ
☆持続期間約4週間！

こんな時におすすめ！

- 低温や高温でハチが箱から出てこない
 - 花が少なくハチが寄り付かない
 - ハチが思う様に飛ばない
 - 毎年着果不良や奇形果が多い
- リキッドタイプ10個入り
(施設：6～12個/10a 露地：10～20個/10a)

※使用方法など詳細はお問い合わせください！！

